Newsletter え～ごがく No.79 日本英語学会

2023年９月20日発行

今回の紙面から（内容とページ）

会長就任にあたって	1
第41回大会のお知らせ	2
第17回国際春季フォーラムのご案内	4
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	5
大会運営委員会より	6
広報委員会より	7
学会賞委員会より	7
日本英語学会2022年度会計報告	7
日本英語学会2023年度予算計画	8
言語系学会連合について	10
事務局より	10

会長就任にあたって

会長　西岡 宣明

昨年１年間の副会長を経て、今年４月より、会長職を務めることになりました。昨年度は金子義明前会長のもとで修業させていただき、今年度は金子先生に副会長をお務めいただき、ご助言をいただいております。事務局も交代いたしました。事務局長は同僚の前田雅子氏にお願いし、新事務局を編成しました。こちらも、私と同様に昨年度から、前事務局の業務内容を共有させていただいておりました。そのおかげもあり、比較的スムーズに業務移行ができていると思いますが、実際に担当してみると、不慣れさと運営の難しさを改めて実感いたしております。

ようやく、新型コロナウイルス感染症も収まりつつあり、いよいよ大会の対面開催も実現しそうです。今年度の国際春期フォーラム（SF16）までは前事務局がすべて準備にあたり、青山学院大学をホスト大学として Zoom によるオンライン開催で行われました。実行委員、ホスト大学、また、前事務局の先生方の多大なご尽力により無事滞りなく終わりましたことを感謝申し上げます。そして、秋の東京大学で開催される第41回大会はいよいよ対面開催となります。公開特別シンポジウム等一部ハイブリッド開催とし、オンライン開催で得た利点も取り込みつつ、基本的にはコロナ前の姿に戻していく予定です。2019年の第37回大会以来の対面開催ですので、実施に関して緊張もありますが、関係者各位に万全を期してご準備頂いております。また、今回は久しぶりの懇親会も予定されておりますので、皆様方、ぜひ会場へお越しください。

本学会は1983年創設以来、大きく発展してきました。歴代の会長、役員、事務局のご尽力により、機関誌の充実・国際化・国際連携の強化、学会賞など各種顕彰制度や助成金制度の導入等を行ってまいりました。また、近年では、それに伴う事務量の増大化に対処するために、ペーパーレス化、オンライン化とともに事務量を減らす方策が進められてきました。大会関係では、*Conference Handbook*（*CH*）と *JELS* は電子版のみの発行となり、さらに、今年度から *CH* を廃止し、代わりにハンドアウト等の発表資料を学会の Web サイトにアップロードする形態に移行して、発表者と編集担当者の双方の負担を減らすものとしています。また、機関誌 *English Linguistics* の刊行は年一回となりました。さらに、大会応募に関しては EasyChair、論文投稿に関しては、Editorial Manager というオンラインシステムを導入しました。

近年のペーパーレス化、オンライン化はもちろん会員の皆様の便宜を図ることと事務局や委員会の仕事量の軽減が主な理由ですが、学会の財政上の問題も要因の一つです。学会設立当初の会員数は約780名で、20周年時におよそ1760名近くとなりましたが、その後減少して、30周年時に1600名弱となり、41年目の現在は1150名弱となっております。会員数の減少は学会財源に直接的に影響し、このまま会員数が減少すると学会業務運営上の深刻な問題が生じます。

会員数減少の要因としては、全国的に研究者を目指す英語学・言語学専攻の大学院生の数が減ってきたこともあると思われますが、それに加えて、専門分野の細分化が考えられます。確かに、それぞれの専門分野の全国学会組織もできてきたため、英語学会に属する利点を見出しにくいと思われる方々がいらっしゃるのは想像に難くはありません。しかし、逆に細分化したからこそ、様々な分野を包括する学会の意義があると考えられます。「英語の共時的・通時的研究及び言語理論の進歩・発展に寄与する」という本学会の目的に沿い、学会の意義を再確認し、その利点を生かして会員の皆様にとってより魅力のある学会であるよう理事会を中心に役員の方々と検討していきたいと思います。会員の皆様もどうぞ日本英語学会に対するご要望をお聞かせください。elsj-info@kaitakusha.co.jpへ直接ご連絡いただくか、お近くの評議員の先生方にご相談いただけますと幸いです。評議員は、現在115名、全会員数の10%に相当する各地域、大学に広がるように選出されており、皆様方のご意見を汲み取っていただくものとなっております。会員数減少に何とか歯止めをかけ、50周年、さらにその先を見据えて、日本英語学会の伝統と強みを次世代に継承し、発展できる一助となるよう、微力ながら２年間精一杯務めさせて頂きたく存じます。何卒、会員の皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第41回大会のお知らせ

今秋の大会は東京大学駒場Ｉキャンパス（東京都目黒区駒場３丁目8-1）にて2023年11月４日（土）・５日（日）に開催されます。今年度は、３件のワークショップ（内１件のスチューデント・ワークショップ含む）、24件の研究発表、３件の特別講演と３件のシンポジウム（内１件の公開特別シンポジウム含む）が予定されています。なお、特別講演と公開特別シンポジウムは対面・Zoom の Hybrid 形式で開催する予定です。

特別講演の講師と題目は以下の通りです。

- David Pesetsky “Dissimilation: Shrinker of Clauses”
- 大堀壽夫「Regardless―談話文脈と構文変化」
- 川原繁人（古澤里菜・浅野真菜との共同発表）「言語学と音楽の出会い」

シンポジウムの内容は以下の通りです。（［　］内は司会者、（　）内には講師（または指定討論者）と題目を記載しています。

A.「語を味わい尽くす―「多面的な理解」の実践」［平沢慎也］（鈴木亨「When you think X, you think Y―談話・語用論的機能と you の選好」、柴田元幸「文学の中の you―現代アメリカ小説を中心に」、堀田隆一「you の総称的用法はどこから来たのか？」、関山健治「“You” は「あなた」か？―自然な英語と日本語を意識した学習英和辞典をめざして」）

B.「深層学習時代の言語研究」［大谷直輝］（大谷直輝「言語分析の研究サイクルの必要性と現状」、永田亮・高村大也・川崎義史「深層学習時代の言語研究：導入と基礎」、大関洋平「深層学習時代の統語論」、持橋大地「Infinite SCAN: 意味の数とその時間変化を同時に推定する統計モデル」、堀川友慈「大規模言語モデルで読み解くヒト脳の意味情報表現」

C. “Comparative Constructions in English and Other Languages”［Toshiko Oda］（Duk-Ho An “Reduced NP Comparatives in Korean,” Toshiko Oda “Contextual Comparison Revisited,” Linmin Zhang “The Semantics and Pragmatics of Multi-Head Comparatives,” Osamu Sawada “The Ambiguous Negative Comparison: With Special Reference to the Japanese *Kurabe Mono-ni Nara-nai* ‘Cannot Be Compared’”）

（スチューデント）ワークショップの内容は以下の通りです。

A. New Emerging Prospects in the Generative Tradition（発表者決定済み）
企画者：Yosuke Sato

B. Towards an SMT-Compliant I-Language System: On an SMT-based Merge with Segregation（発表者決定済み）
企画者：Yushi Sugimoto

C. 名詞句から見る言語間差異とその理論的考察（発表者決定済み、スチューデント・ワークショップ）
企画者：川満　潤

本大会の詳しいスケジュールとプログラムについては、10月下旬に学会ウェブサイト（https://elsj.jp/meeting/）に掲載予定の「スケジュール・プログラム」、「発表要旨」ならびに「ワークショップ・プログラム」をご覧ください。

◇　**大会の受付について**

今年度の第41回大会は前年度に引き続き、**オンライン参加登録システムを導入します。それに伴い、参加者には事前に大会参加費を納入して頂きます。**大会参加にあたって必要な**発表資料や、Hybrid 開催する総会・特別講演の Zoom 情報（URL、ID、パスコード）を載せたファイルにパスワードをかけ、開催日１週間前を目途に学会ウェブサイトにアップ**する予定です。このファイルを開くための**パスワードは、オンライン参加登録・大会参加費決済完了後のメール返信にてご案内いたします。**登録に関する詳細は、同封のご案内と９月下旬に学会ウェブサイトに掲載予定の「オンライン参加登録について」をご覧下さい。

公開特別シンポジウムにオンラインで参加される方は、上記オンライン参加登録システムとは別の参加登録フォームへのご登録をお願いいたします。詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。

大会当日は受付にて名札をお渡しします。名札をつけていない方は入室できませんのでご注意ください。ただし４日（土）午前のワークショップと５日（日）午後の公開特別シンポジウムは、参加費と名札なしで入室できます。また、４日（土）の受付は11時30分より始めますので、お早めにお出かけください。

◇　**学内食堂・売店の利用時間について**

４日（土）・５日（日）の両日とも、昼食にレストランまたは学内食堂のいずれかをご利用いただけます。生協購買部は土曜日は11時から17時まで開店しており、駒場東大前駅から近いところにコンビニエンスストアが２つあります。

◇　**宿泊先について**

今回の大会は３連休の土日に開催されるため、大会直前になると宿泊施設の予約が埋まっている可能性があります。早めの宿泊施設のご予約をお願いいたします。

◇　**総会について**

４日（土）の12：00より12：50まで総会を対面・Zoom の Hybrid 形式で開催します。総会では、会長の挨拶、開催校代表のご挨拶、大会運営委員会、編集委員会、広報委員会、学会賞委員会、事務局からの報告ならびに授賞式などがあります。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

◇　**懇親会について**

今年度は４日（土）の18：00より20：00まで、東京大学の生協にて懇親会を開催いたします。懇親会の参加・支払いは当日懇親会会場で受け付けます。

尚、懇親会参加者の概数を把握するため、オンライン参加登録時に、懇親会参加希望調査をいたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◇　**大会優秀発表賞について**

2015年11月開催の第33回大会より、大会優秀発表賞の審査が行われています。これは事前に審査希望を申請した研究発表を審査して表彰するものです。大会終了後に審査結果をまとめ、ウェブサイトおよびニューズレターで受賞者を発表します。

◇　**証明書等の発行について**

大会出席のため、所属機関に提出する証明書等が必要な方は、registration@kaitakusha.co.jp までご連絡ください。電子データにて証明書等を作成し、送付させていただきます。紙媒体の証明書の郵送を希望される場合も、上記の連絡先にご連絡いただきますようお願いいたします。

◇　**「親と子の部屋」について**

今年も大会会場に「親と子の部屋」という保育室を設けます。専門の保育士が待機しておりますので、安心してご利用いただけます。利用ご希望の方は学会ウェブサイトをご覧のうえ、担当の大会運営委員と事務局までご連絡ください。

◇　***Conference Handbook* の廃止について**

今年度より、*Conference Handbook* という形ではなく、電子版でハンドアウト集を作成いたします。大会の１週間ほど前から11月中旬までの間、学会ウェブサイトからダウンロードできるようにする予定です。**当日は事前にダウンロードの上、PC 持参で会場にお越しください。また、会場で**

は、eduroamに加え、U-Tokyo Guestというwi-fiへの接続が可能です。U-Tokyo Guestの使用に際しては、携帯電話による利用登録が必要です。詳しくは、10月下旬に学会ウェブサイトに掲載します。

なお、データ保護の観点から、掲載期間が終わるとハンドアウトは学会ウェブサイトから削除されますので、お手元に残したい場合は、必ず**掲載期間内にダウンロード**していただきますよう、お願いします。

第17回国際春季フォーラムのご案内

第17回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

2024年５月25日（土）・26日（日）
〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町
京都大学吉田キャンパス

また、第15回国際春季フォーラムより発表応募についてはEasyChairを導入しております。この変更に伴い、第17回国際春季フォーラムへの研究発表とワークショップの応募についても、**応募者自身がEasyChairに登録する必要があります**。詳しい応募方法につきましては、同封の案内、または、学会ウェブサイト（https://elsj.jp/sf_top/）をご覧ください。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費３万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、*EL*、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。終身会員に関する規定等については、学会ウェブサイトのトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。登録申し込みは、**４月１日から４月25日**です。

理事会より

◇ **計報**

本学会顧問でいらっしゃった長谷川欣佑先生（東京大学名誉教授）が2023年３月31日にご逝去なされました。長谷川先生は、1988年～1992年に第二代日本英語学会長として本学会発展のために多大なご尽力をくださいました。ご貢献に感謝しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。長谷川先生のobituaryがEL40巻に掲載される予定です。

◇ **会計**

2023年７月８日に開催されました第86回理事会において、日本英語学会2022年度収支決算書と2023年度予算計画書が承認されました。収支決算および予算計画の内容については、このニューズレターの７ページから９ページに掲載されておりますのでご覧下さい。

◇ **役員の異動**

会長（退任）

2021年４月１日より２年間の任期を終えられ、金子義明氏が2023年３月31日付けで退任されました。

副会長（退任）

西岡宣明氏が2023年３月31日付けで退任されました。

顧問（退任）

長谷川欣佑氏が2023年３月31日付けで顧問を退任されました。

評議員（退任）

大室剛志氏、金子義明氏、川崎典子氏、佐々木一隆氏、都築雅子氏、廣瀬幸生氏、田辺春美氏、以上７名の方が2023年３月31日付けで退任されました。

広報委員長（退任）

秋庭大悟氏が2023年３月31日付けで退任されました。

大会運営委員長（退任）

本間猛氏が2022年12月14日付けで退任されました。

学会賞委員長（退任）

遠藤喜雄氏が2023年３月31日付けで退任されました。

事務局長（退任）

島越郎氏が2023年４月30日付けで退任されました。

大会運営委員会書記（退任）
菅野悟氏が2023年４月30日付けで退任されました。
評議員会書記・事務局補佐（退任）
佐藤亮輔氏が2023年３月31日付けで退任されました。
財務・学会賞委員会・理事会書記（退任）
北田伸一氏が2023年３月31日付けで退任されました。
広報委員会書記（退任）
佐藤陽介氏が2023年３月31日付けで退任されました。
国際春季フォーラム書記（退任）
佐藤陽介氏が2023年５月31日付けで退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

会長（就任）
西岡宣明氏が2023年４月１日付けで就任されました。
副会長（就任）
金子義明氏が2023年４月１日付けで就任されました。
顧問（就任）
廣瀬幸生氏が2023年４月１日付けで就任されました。
評議員（就任）
天沼実氏、磯部美和氏、塩原佳世乃氏、島越郎氏、島田雅晴氏、杉村美奈氏、中川直志氏、長野明子氏、山腰京子氏、以上９名の方が2023年４月１日付けで就任されました。
広報委員長（就任）
葛西宏信氏が2023年４月１日付けで就任されました。
大会運営委員長（就任）
田川拓海氏が2022年12月15日付けで就任されました。
学会賞委員長（就任）
由本陽子氏が2023年４月１日付けで就任されました。
事務局長（就任）
前田雅子氏が2023年５月１日付けで就任されました。
大会運営委員会書記（就任）
大塚知昇氏が2023年５月１日付けで就任されました。
評議員会・広報委員会書記・事務局補佐（就任）
林愼将氏が2023年４月１日付けで就任されました。
財務・学会賞委員会書記（就任）
黒木隆善氏が2023年４月１日付けで就任されました。
編集委員会書記（就任）
團迫雅彦氏・下仮屋翔氏が2023年４月１日付けで就任されました。
理事会書記（就任）
萱嶋崇氏が2023年４月１日付けで就任されました。
国際春季フォーラム書記（就任）
萱嶋崇氏が2023年６月１日付けで就任されました。

◇ **会員数の変動について**

現在の会員数は1131名（2023年６月12日現在）です。内訳は、学生会員31名、通常会員904名（海外会員７名を含む）、維持会員115名、終身会員66名（顧問９名を含む）、賛助会員15団体です。

編集委員会より

◇ ***English Linguistics* 第40巻からの年１号化と投稿方法のオンライン化について**

学会ウェブサイト等を通してお知らせしていますとおり、*EL* 第40巻から年１回の刊行（年１号化）となりました。これに加えて、*EL* 第40巻からオンライン投稿システム（Editorial Manager）へ移行しました。

◇ ***English Linguistics* 第39巻２号（2023年春号）の刊行について**

EL 第39巻２号（春号）が刊行されました。Article １編、Brief Article １編、Notes and Discussion ２編、Review Article １編、Review ５編が掲載されています。会員の皆様には刊行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

◇ ***English Linguistics* 第40巻（2024年春発行）の応募論文について**

2023年４月１日締め切りで投稿された一般論文の総数は16編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 11編（Syntax 6, Cognitive Linguistics/Historical Linguistics/Syntax 1, Pragmatics/Psycholinguistics/Syntax 1, Lexical Semantics/Pragmatics 1, Cognitive Linguistics/Pragmatics 1, Phonetics/Phonology/Syntax 1）、Notes and Discussion ５編（Syntax 3, Lexical Semantics/Descriptive Grammar/Linguistic Typology 1,

Formal Semantics 1）でした。

以下の表は、Article 11編、Notes and Discussion ５編、慫慂によるRA １編、Review ３編と前号より「４ヶ月書き直し」として再投稿された論文６編の、*EL* 第40巻の審査状況です（2023年７月13日現在）。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	11	0	4	0	7
N&D	5	0	3	0	2
RA	1	0	1	0	0
Review	3	3	0	0	0
４ヶ月書き直し					
AR	4	1	3	0	0
BA	2	1	1	0	0
合計	26	5	12	0	9

◇ ***English Linguistics* 第41巻（2025年春発行）への投稿について**

2025年４月発行予定の *EL* 第41巻への Editorial Managerによる応募は随時行っております。なお、応募締め切りは、2024年４月１日24時（必着）を予定しております。応募される方は、学会ウェブサイトにて投稿規定および書式に関する注意事項をご確認いただき、ネイティブチェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ **preprint の公開について**

EL への投稿原稿（preprint）を個人のウェブサイト等に掲載することに関してガイドラインが定められています。詳しい内容については、学会ウェブサイトをご覧ください。

大会運営委員会より

◇ **第41回大会個人研究発表への応募の審査結果**

個人研究発表には33件の応募があり、審査の結果24件が採用されました。

◇ **研究発表応募規定の改定について**

これまで研究発表応募の要旨は、日本語の場合は文字数、英語の場合は語数によって分量を制限していましたが、文字数・語数のカウントが文書作成環境によっては手間・時間がかかるという会員からの意見を受け、検討の結果、研究発表応募規定を改定し、文字数、語数に関わらず本文をＡ４用紙４枚以内とし、これと別に参考文献を１枚以内でつける形に変更いたしました。詳しくは、学会ウェブサイトの「研究発表応募規定」をご覧ください。

◇ ***JELS* 投稿規定の改定について**

JELS が電子化されたことにより、これまで行っていた印刷費用を抑えるためのページ数の工夫が不要となりました。そのため、まず従来の二段組構成を廃止し、その変化に伴うページ数調整のため、研究発表については従来７ページ以内だったものを10ページ以内に変更しました。あわせて特別講演、シンポジウム・リポートは５ページ以内に、ワークショップ・リポートは３ページ以内に変更しました。詳しくは、学会ウェブサイトの「*JELS* 投稿規定」をご覧ください。

◇ **第16回国際春季フォーラム報告**

日本英語学会第16回国際春季フォーラムは2023年５月13日・14日にオンライン形式で開催されました。今年度のフォーラムでは、国内からの２名の研究者と国外からの１名の研究者による招待講演（全体講演）、11件の研究発表が行われました。第16回フォーラムではワークショップとポスター発表は行われませんでした。全体で94名の参加者があり、活発な議論が展開されました。今後、さらに国際的なフォーラムとして飛躍・発展することが期待されます。フォーラムの運営を支えてくださった開催協力校である青山学院大学の高橋将一先生と葛西宏信先生、大谷直輝実行委員長と小田登志子実行副委員長をはじめとした大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

◇ **国際春季フォーラム優秀発表賞審査結果報告**

第９回国際春季フォーラムより、国際春季フォーラム優秀発表賞の審査が行われています。事前に審査希望を申請した研究発表を対象とし、応募アブストラクトの査読点による一次審査および、フォーラム当日の発表に対する二次審査により受賞が決定されます。第16回国際春季フォーラム優秀発表賞の審査の結果が６月に開催された大

会運営委員会で審議され、鈴木舞彩氏の研究発表 “Labeling and Selection: A Case Study of *Wh*-Associated *Exactly*” に佳作を授与することが決定されました。審査結果は学会ウェブサイトにて公表されています。

広報委員会より

◇ **J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）での *EL* オープンアクセス化に向けた作業について**

EL は原則として刊行の２年後に J-STAGE にて電子ジャーナルとして公開しております。2023年７月までに *English Linguistics* 第37巻第１号まで公開が完了しています。以下の URL をご参照ください。https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj/

◇ ***EL* 刊行と同時の電子化について**

学会ウェブサイト（https://elsj.jp/）に設置されている *English Linguistics* Online に第39巻第２号まで公開が完了しています。なお、ダウンロードは *EL* の裏表紙に記載の ID・パスワードによって可能です。以下の URL をご参照ください。https://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

学会賞委員会より

◇ **新人賞と学会賞（論文）の応募状況**

2023年度新人賞と学会賞（論文）の応募は４月15日に締め切られました。新人賞と学会賞（論文）への応募はありませんでした。

◇ **学会賞（著書）の応募状況**

４月15日に締め切られた2023年度学会賞（著書）には３件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は２年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は３件とも受理されました。審査領域は、統語論・意味論１件、統語論１件、認知言語学１件です。学会賞（著書）は、１次審査と最終審査の２段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催の日本英語学会総会で報告されます。

日本英語学会2022年度会計報告

2022年度各種収支決算書（2023年４月１日現在）が監事（秋孝道氏、菊田千春氏）による監査を経て、７月８日に開催された第86回理事会で承認されました。

言語系学会連合について

今年度は、日本語教育学会が運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2023年度）西口光一（運営委員長、日本語教育学会）大室剛志（運営副委員長、日本英語学会）池田理紗（運営委員、全国語学教育学会）北原真冬（運営委員、日本言語学会）野田尚史（運営委員、日本語学会）

【監査委員】（任期は 2022年度と2023年度）アントン ポットギター（全国語学教育学会）菅原彩加（日本言語学会）

【事務局】（任期は2023年度）建石始（事務局長、日本語教育学会）奥山好絵（事務局委員、日本語教育学会）

2021年度と2021年度に監査委員を務められた渡辺明理事に感謝申し上げます。お疲れ様でした。

2024年度は、日本英語学会が運営委員長を務めるため、西岡宣明会長と田中公介先生（産業医科大学）が2023年度、運営委員会にオブザーバーとして参加することになりました。

2023年度 第１回言語系学会連合運営委員会が６月10日（日）10:00-12:10にZoomで開催されました。日本英語学会からは、西岡宣明会長と田中公介先生と大室剛志理事が出席。(i) 2023年度の運営体制について、(ii) 2022年度の活動報告・決算について、(iii) 2023年度の活動・事業計画・予算について、(iv) 2023年度共催事業の追加募集について、(v) 意見交換会の開催場所・日時について、(vi) 言語系学会連合広報担当者の編集者追加依頼及び謝金支払いについて、(vii) 2023年度講演申請について審議しました。特に（iv）に関して、西岡宣明会長と前田雅子事務局長のご尽力により、日本英語学会第41回大会（本年度）公開シンポジウム「語を味わい尽くす」が言語系学会連合の2023年度共催制度の補助金を獲得しました。

言語系学会連合第13回（2023年度）意見交換会が７月23日（日）10:00-12:00にZoomで開催され38加盟学会のうち26学会が出席しました。日本英語学会からは、西岡宣明会長と田中公介先生と大室剛志理事が出席。(i) 海外在住の会員の会費の支払い方法について、(ii)、共催事業の申請時期について、(iii) 加盟学会同士の共催について、(iv) 大会等イベントの新しい開催方法について意見交換を行いました。

言語系学会連合の詳細と加盟学会の活動予定等については、下記のウェブサイトをご覧ください。
https://uals.net

事務局より

◇ **会員数について**

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2023年６月12日現在の会員総数は1131名です。

◇ **会費納入のお願い**

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。今年度から、会費請求書がSMBC発行の請求書に変更になり、コンビニでの振り込みが可能になりました。会費請求書が期限切れの場合は学会支援機構（elsjkaiin@asas-mail.jp）に再発行請求のご連絡をお願いいたします。機関によっては、上記振込用紙での支払いが難しい場合があるため、公費でお支払いされる方は、会費納入前に所属機関の経理担当者にご確認をお願いいたします。なお、２年間滞納されますと、会則第８条第４項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

◇ **学生会員登録（継続会員）について**

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意下さい。今年度の学生（継続）会員手続きは、４月25日に締め切りました。

なお、**来年度より、学生会員登録をメールでの申請に変更**いたします。手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ **学生会員登録（新規入会）について**

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意下さい。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ ***JELS*への論文投稿に関するお願い**

*JELS*に論文を投稿される際には、日本英語学

会ウェブサイトに掲載されております「*JELS* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

◇ ***EL* への論文投稿に関するお願い**

EL に論文を投稿される際には、日本英語学会ウェブサイトに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。*EL* 第40巻より、オンライン投稿システム（Editorial Manager）による応募受付を開始しております。詳細は学会ウェブサイト内の「電子版投稿に関する情報（2023）（下記 URL）」をご覧ください。

「電子版投稿に関する情報（2023）」
https://elsj.jp/english_linguistics/el-kitei/eltoko_j/

JELS や所属機関の working papers 等に掲載された研究（の一部）を発展させて *EL* に投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用下さい。

◇ ***EL* 掲載論文の再録やレポジトリーへの登録に関するお願い**

EL に掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、*EL* に掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリー」や「電子アーカイブ」に *EL* に掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後２年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意願います。

◇ ***JELS* 掲載論文の再録・登録に関するお願い**

JELS 掲載論文についても、再録および学術レポジトリーや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、*EL* 掲載の論文と同様に、事前に事務局までお申し出下さい（elsj-info@kaitakusha.co.jp）。

JELS 掲載論文については、発行後１年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリーなどへの掲載をお認めしています。なお、*JELS* 37以降に関しましては、刊行当初からオンライン上でのフリーアクセスとしましたので、再録や学術レポジトリーなどへの掲載は自由となっています。

◇ ***EL* 公費購入のお願い**

ご所属の大学図書館や研究室で *EL* を購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。*EL* がより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、*EL* への投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常一週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ **連絡先等変更のご連絡のお願い**

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会ウェブサイト「各種手続き・お問い合わせ」ページ（https://elsj.jp/inquiries/）**の会員登録情報自己管理オンラインシステム（マイページ）にて変更手続きを行っていただく**か、学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧下さい。

◇ **新事務局の体制**

本年度４月１日付けの西岡宣明会長の就任に伴い、事務局でも次のような異動がありました。新

事務局のメンバーは前事務局の方々から多くのサポートをいただきながら、それぞれの業務を引き継ぎました。これから２年間、英語学会の運営のために業務に臨む所存ですが、会員の皆様からもご協力を頂ければ幸いです。

退任
事務局長
　島　越郎（東北大学）　　（2023年４月30日付）
評議員会書記・事務局長補佐
　佐藤亮輔（高知大学）
財務・学会賞委員会・理事会書記
　北田伸一（新潟大学）
広報委員会書記
　佐藤陽介（津田塾大学）
　　（以上、2023年３月31日付）
大会運営委員会書記
　菅野　悟（東京理科大学）（2023年４月30日付）
国際春季フォーラム書記
　佐藤陽介（津田塾大学）　（2023年５月31日付）

就任
事務局長
　前田雅子（九州大学）　　（2023年５月１日付）
財務・学会賞委員会書記
　黒木隆善（九州共立大学）
理事会書記
　萱嶋　崇（熊本県立大学）
広報委員会・評議員会書記・事務局長補佐
　林　愼将（南山大学）
編集委員会書記
　團迫雅彦（北九州市立大学）
　下仮屋　翔（産業医科大学）
　　（以上、2023年４月１日付）
大会運営委員会書記
　大塚知昇（九州大学）　　（2023年５月１日付）
国際春季フォーラム書記
　萱嶋　崇（熊本県立大学）（2023年６月１日付）

編集後記

４月に前事務局より学会業務を引き継ぎましたが、まだ不慣れな部分が多く、前・現事務局の先生方や会長のご助言のおかげでなんとか業務を進めています。また、今年度は対面学会が増え、コロナ禍前の学会活動が戻ってきていると感じ、嬉しく思っています。日本英語学会においても、第41回大会を４年ぶりの対面開催で行う予定です。本大会では、これまでのオンライン開催の経験を活かし、総会、公開シンポジウム、特別講演については対面と Zoom の Hybrid 開催を予定しております。また、懇親会・書籍展示も行う予定です。書籍展示に関しては、郁文堂、研究社が中心となって準備を進めてくださっています。会員の皆様が学会会場で活発に交流できるよう、田中伸一代表委員をはじめとした開催校委員の先生方、大会運営委員の先生方と協力して準備を進めております。

また、会員の皆様の利便性や事務作業の効率化を高めるため、７月の理事会では、大会投稿規定の改定、*JELS* 投稿規定の改定、学生会員登録のオンライン化を行うことが了承されました。また、大会参加登録に関しても、昨年度に引き続きオンライン参加登録を行います。オンライン参加登録は、事務作業の効率化だけでなく、本年度から試行予定の一部 Hybrid 開催を可能にするためにも必要な手続きですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

秋の第41回大会は東京大学駒場Ｉキャンパスで開催予定です。会員の皆様にお目にかかれるのを事務局一同楽しみにしております。　　（M.M.）

2023年９月20日発行
編集・発行　日本英語学会
代表者　西岡　宣明
発行所　日本英語学会
https://elsj.jp/
〒112-0013
東京都文京区音羽1-22-16
二見ビル５Ｆ　開拓社内
電話 (03) 5395-7101